

# 六月やはだけし胸のおのれの香

藤田湘子

「はだけし胸の」と来れば、私の記憶に蘇ってくるのは何故か写真集「薔薇刑」の三島由紀夫である。もともと瘦身に虚弱体質の三島は、ボディビルやボクシング、剣道で身体を鍛え、自分の肉体改造を図ったと言う。写真集の三島は、マゾヒスティックではあるが、確かに筋肉質な裸体モデルを演じていた。

湘子先生は、起床が遅かったらしい。六月、パジャマ姿よりは、やはり寝間着姿で洗面台へ向かい、寝乱れた自分の「はだけし胸」を鏡に写した様子ともとれる。

俳句で「おのれの香」と詠んだのは、湘子が初めてではなからうか。歳時記にも「おのれの何々」と詠んだ例句はあるが、「香」と特定したのは極めて珍しい。

1991年(53作) 第九句集『前夜』 鑑賞・轍郁摩